

ぐん しゅうふん
群集墳

鳥栖市教育委員会



永田古墳群全景（東から）

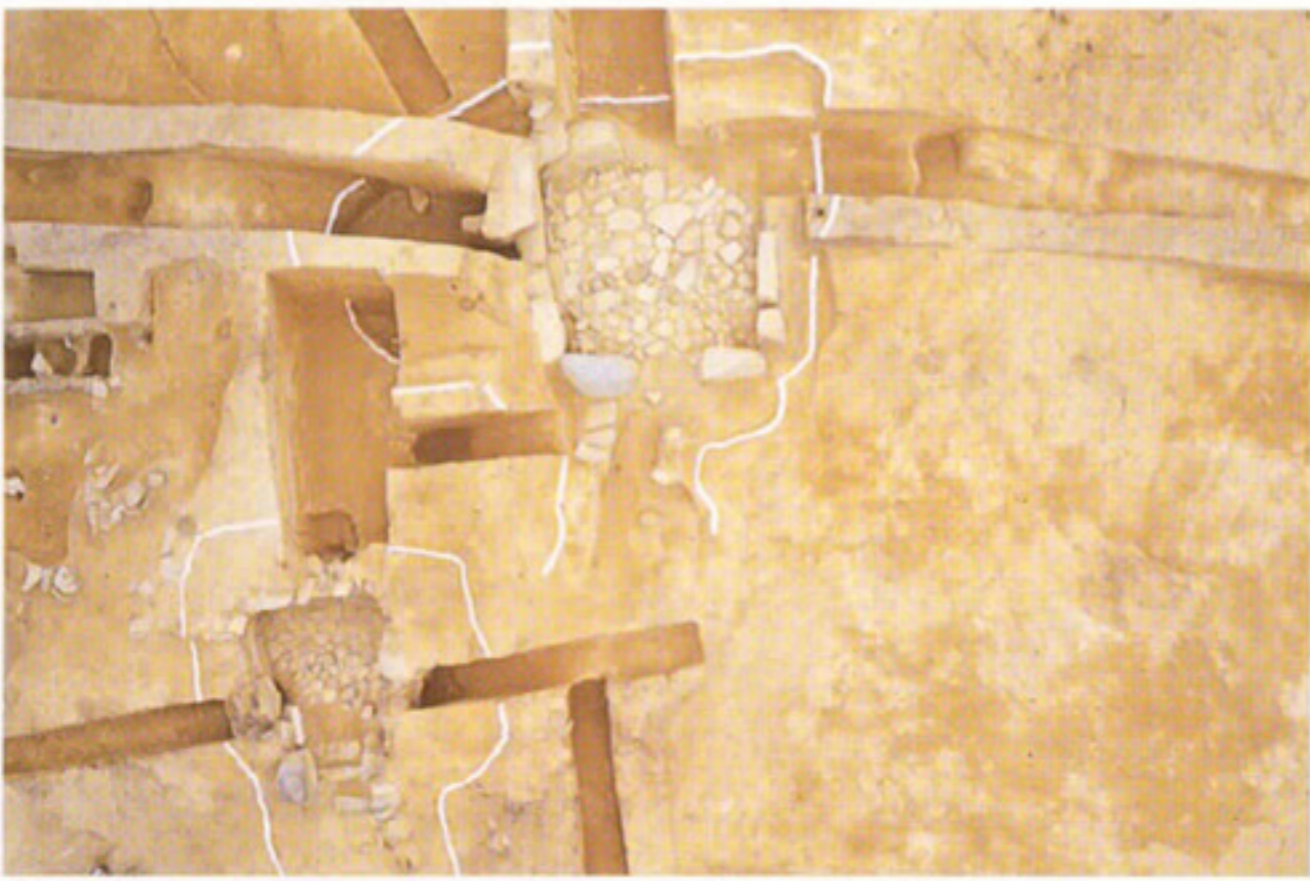
6世紀半ばから7世紀代の時期を中心として杓子ヶ峰から群石山、雲野尾峠の山麓一帯には、直径10m前後の「円墳」とよばれる平面の形が丸い古墳が大量に造られます。現在までに鳥栖市域では30カ所300基ほどの古墳が確認されていますが、今後の調査によっては600～700基以上にのぼる可能性があり、鳥栖市域の脊振山地南麓はまさに群集墳の密集地帯です。

柚比遺跡群では、梅坂古墳群、永田古墳群の調査を行っています。永田古墳群は山から延びる舌状の大きな丘陵が2つと、その間に張り出した小さな丘陵の3つから構成されています。平成8年度は一番北側の26基を調査しました。今後の調査によって総数は40～50基になると思われます。また、これらの古墳が造られた時代の集落は、平原遺跡、大久保遺跡など、付近の遺跡から発見されています。特に近くを流れる本川川の兩岸の丘陵には集落があったようで、この川をさかのぼると永田古墳群にたどりつきます。このことから、この古墳群に埋葬されている人たちは、これらの集落で生活していた人たちなのかもしれません。

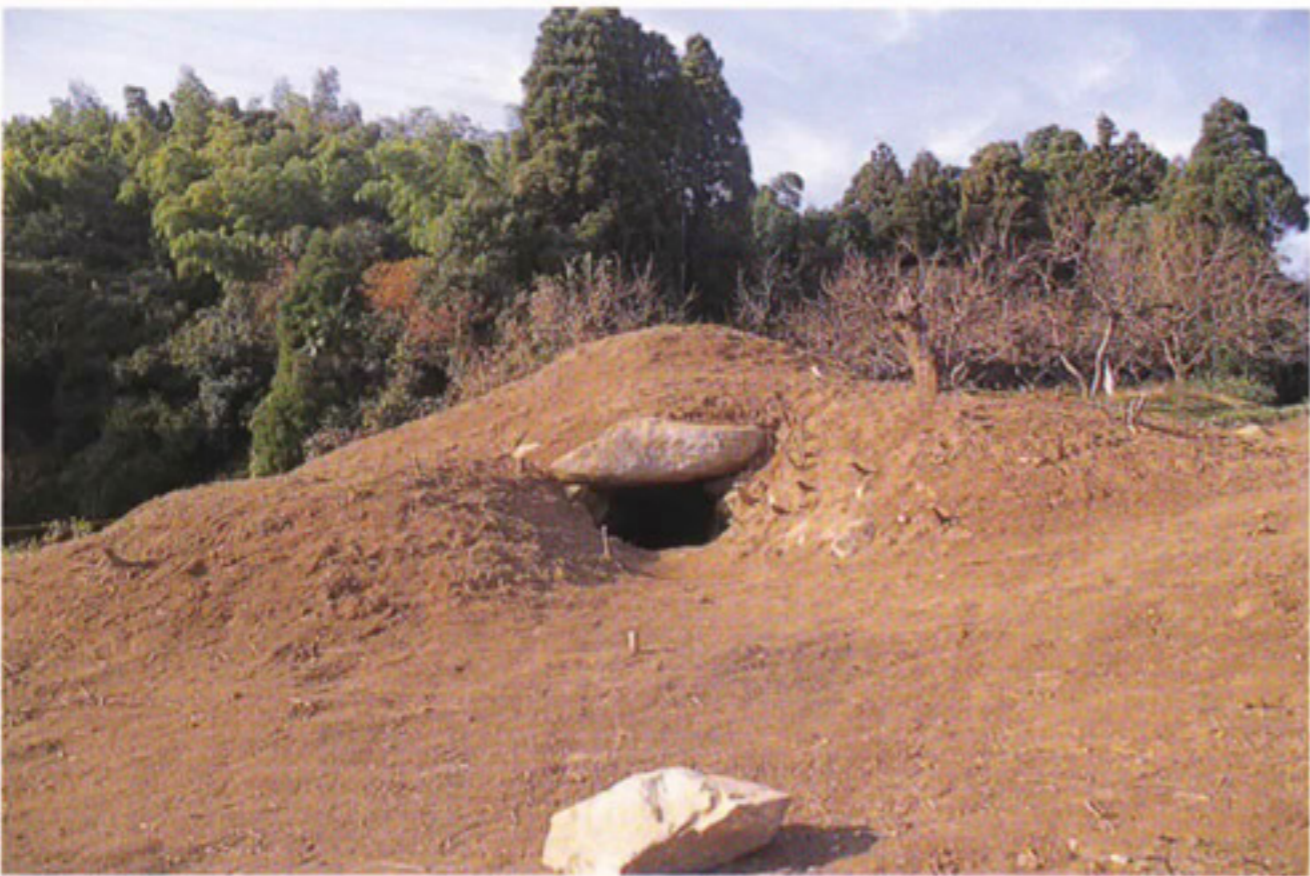
群集墳は、剣塚古墳や田代太田古墳など6世紀代に造られた大型の古墳とは規模・内容とも異なることから、有力者の墓ではなく、この地域における一般民衆よりも1ランク身分の高い人物および一族の墓であると思われます。



真上からみた古墳群（永田古墳群）



石室が崩れ落ちている古墳



壊れていない古墳（永田古墳群）



土器の出土状況

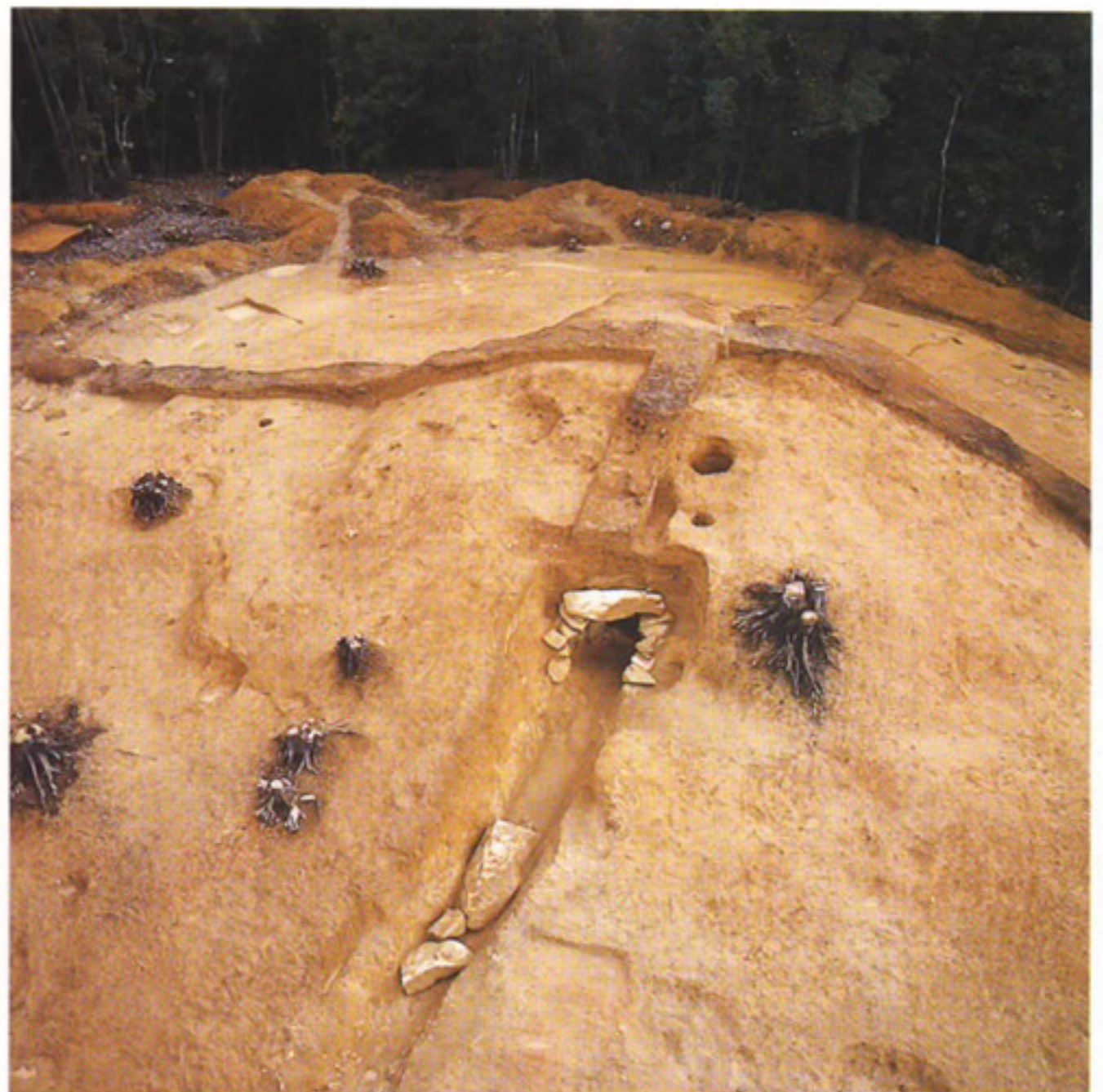
永田古墳群を構成する古墳のなかには、天井石が残りほぼ完全な形で残っているものもありますが、ほとんどの古墳は後世に盗掘など人の手が加わっており、石室も一部露出しているものが多く、陥没するなど本来の形状を保っているものはありません。

内部はすべて横穴式の石室です。石室の入り口は、ほとんどが南向きに開いており、内部は、1つの部屋を持つものと、2つ以上の部屋から成るものがあります。石室の中には、石が敷かれています。この古墳は盗掘にあっているため、明確に石を敷いている古墳は少ないようです。一部の古墳では周溝が確認されており、墳丘の周りを巡っています。墓道から大量の土器が出土している古墳もあります。

また、小型の石室も確認されています。その中には、完形の土器が多数納められていました。

出土遺物としては、鉄器（刀子・鉄鏃・矛・直刀・馬具類）・耳かざり（耳環）・首かざり（小玉・管玉）が出土しています。土器に関しては、須恵器（提瓶・平瓶・高坏）・土師器などがあります。

柚比遺跡群にはほかにも梅坂古墳群があり、調査を行っています。



梅坂古墳